

風に夢と 未来をのせて

かざみどり
日本初の洋上風車「風海鳥」が平成16年4月より本格稼動へ

瀬棚町といえば、冬は北西の季節風が非常に強く、また、夏は「やませ」(東風)が強く吹きつける町。それがまた一つの特色でもあります。その「風」は、年間平均風速7.9m/sという「強風」で、私たちの生活にさまざまな影響を与えます。先人たちはこの厳しい自然環境をむしろ恵まれた環境として活かし、努力により幾多の困難を乗り越え、この瀬棚町を築いてきました。私たちは今、こうした先人たちの努力を教訓としながら、未来を切り開くための大きな夢に向かって歩みはじめています。

地球温暖化に大きく貢献

現在、近年の急速な地球温暖化を防止するため、再生可能エネルギーの利用促進が世界的な課題となっています。

こうした背景の中で注目を集めているのが「風力発電」であり、日本各地でも導入されているところです。なかでも、ヨーロッパにおける「洋上風力発電」の進歩はめざましく、陸上よりも安定した強い風が吹くことから、効率のいい洋上での風力発電は地球温暖化の原因となる二酸化炭素の削減に大きく貢献すると期待されています。

このような世界的な動きの反面、日本では恵まれた洋上エネルギーを持っていてもなかなかかわらず、海面にはさまざまな規制があるため風力発電の建設計画が進みませんでした。こうした状況の中、瀬棚町では関係機関と調整を進めながらさまざまな課題をクリアし、日本初となる「洋上風力発電施設」を完成させました。

日本初の洋上風車に注目

数年にわたり、調査や調整を行ってきた「洋上風車建設事業」は、平成15年5月から本格的に工事が進められ、洋上風車2基の組立てが同年8月に完了。瀬棚港内によくやくその姿を現しました。

現在は、平成16年4月の本格的な運転に向け試験運転を行っています。また、シンボルとなるロゴとあわせて愛称も「風海鳥」(かざみどり)と決まり、平成15年11月10日にはシンポジウムが開催されました。



瀬棚町洋上風車「風海鳥」シンポジウム

こうして、本格稼動へ向け着々と準備が進む「洋上風車建設事業」は、日本で初め

洋上風車のできるまで



土台を設置するためのくい打ち



土台が完成。この上に風車を設置



ぞくぞくと風車の部品が搬入



風車を慎重に組み立て



ついに2基の洋上風車が完成



ての先進的な取り組みとして全国から注目されています。

また、発電のみの効果だけでなく、風車の基礎部分を活用したウニ、アワビなどの蓄養施設やコンブの養殖施設（海中林）の設置を計画、そして、訪問者や観光客などの増加に伴うさまざまな経済効果、新エネルギー関連の事業者や実験施設の誘致による町の活性化といったような2次の効果についても大きく期待されているところではあります。

そして、このようなチャンスを活かすためにも、今後、観光客や事業者などの受入体制の整備などといった対策が大切になってきます。

風に夢と未来をのせて

かつて先人たちが瀬棚町を築くために利用したこの自然環境。厳しさの中にも恵があるという教訓を活かし、また私たちが瀬棚町の未来を築いていかななくてはなりません。今日も瀬棚の強い風を受け、元気に回る「風海鳥」はまちを元気づけてくれます。

瀬棚町がもっと元気になるためには、これを私たちが上手に利用していかねればなりません。

風に夢と未来をのせて。

